

平成 29 年度 FD 推進ワークショップに参加して

豊田工業大学

南部紘一郎

1) ワークショップ参加前に考えていたこと

私は昨年まで工業高等専門学校で 6 年間助教として勤めていました。高専でも FD 活動や FD の重要性に関する講習会や実践等が行われており、今回のワークショップに参加する意味があるか考えていました。

その反面、自分の専門分野以外の専門分野の先生方の模擬授業を聴講できることと、本学では講義を担当していないため、久しぶりに授業を行う楽しみを感じていました。

2) ワークショップ期間中の気づき、今後の授業のあり方について

ワークショップ全体を通して、異分野の先生による模擬授業や、自分自身の模擬授業を含め非常に楽しく参加することができました。

グループや全体討議を通して、より教育効果の高い教授法はなにか？また、その教育法はどのようなスタイルがいいのかということが主なメインテーマであったと思います。その中で、「完結させない授業」、「学生の年代、年齢に応じた授業のあり方」、「グループワークの重要性」がキーワードではないかと、私たちのグループでは意見がありました。

「完結させない授業」とは、「面白くわかる、わかった気分になる授業」ではなく、「面白いけどわからない授業」を指しています。具体的には、板書や説明による一方通行の授業ではなく、学生達が自分達で答えを探しその答えを探す取り組みを楽しいと思うような授業のあり方を指しています。この授業を実践していくためには、個人で考えさせるのではなく「グループワークが重要」であると考えています。

「学生の年代、年齢に応じた授業のあり方」とは、現在の学生は勉強の方法を知らない学生が暗記型の学生が非常に多く、最初から自分自身で考えさせる授業ではついていくことのできない学生がいるかと思えます。そのため、低学年では講義形式をメインとした高校寄りの講義とし、高学年につれて自分自身で考える講義にスライドしていくことが重要かと思えます。これは全ての大学で実施することではなく、学生の学力に応じて適宜合わせていくことが重要かと思えます。

これらを実践していくためには、学生との対話やどのような学生がいるかしっかりと把握することが非常に重要であると思えます。そのような観点からも質問票やミニツーカードと言った教員 - 学生間の双方向で講義が必要であると感じました。